

建設技研インターナショナル



タジキスタンの運輸省職員に技術指導する小川さん(右端)



道路・交通部 技術士
(建設部門)

小川 淳一郎さん
(35歳)
Ogawa Junichiro

Check

ハード・ソフト両面で幅広い事業を展開

建設技研インターナショナルは、開発途上国に対する技術協力に特化したコンサルタント集団だ。事業分野は水資源、下水道・排水、防災などからスタートし、現在は道路・橋りょう・交通、環境、社会開発、上水道、エネルギーの8分野に広がる。

誠実で真摯な姿勢を大切に、プロフェッショナルなコンサルティング・サービスを提供し、世界の人々の快適で安全な暮らしの実現に貢献する——そんな基本理念を持つ同社の強みは、プロジェクトの調査・計画、設計、施工監理といったハード面から、人材の能力開発(キャパシティ・ディベロップメント)によるソフト面の強化まで、一貫したサービスを提供できることだ。途上国の持続的発展をサポートするため、課題を幅広い視点で分析し、人々の生活環境の改善や自然環境保全などに対して質の高い支援を実現することを目指している。

2013年には国際協力機構(JICA)コンサルタント契約実績5位となったほか、土木学会国際活動奨励賞を受賞するなど、世界の都市インフラ整備に高い実績を持つ。各分野で技術協力の現場を熟知したプロフェッショナルたちが、関係機関と協力しながら、信頼性の高いコンサルティング・サービスを提供している。



company data

株式会社建設技研インターナショナル
CTI Engineering International Co., Ltd. (略称:CTII)
〒136-0071 東京都江東区亀戸2-25-14 立花アネックスビル
海外事務所 マニラ、ジャカルタ、ウランバートル、イスラマバード、ニューデリー、プノンペン、ビシュケク
設立:1999年4月 資本金:1億円
従業員数:150人(2016年1月現在)
代表者:代表取締役社長 佐々部圭二
事業分野:海外のインフラ整備・社会環境整備にかかわる調査・計画・設計・施工監理・プロジェクトマネジメント業務(都市排水計画、道路計画、廃棄物管理計画、ダム構造計画、道路構造計画、橋梁構造計画、参加型開発、社会経済調査、環境アセスメントなど)

recruitment

新卒採用:あり 中途採用:あり
募集職種:開発コンサルタント(水資源開発、道路・橋梁、都市計画に関する企画、調査、計画、設計など)
TEL:03-3638-2561(代)
E-mail:shinsotsu@ctii.co.jp URL:http://www.ctii.co.jp/graduate/

Career Path

- Age 25 首都大学東京大学院・修士課程(土木工学研究科)修了、当社に入社
- 出向先の建設技術研究所で道路全般の計画・設計業務に従事
- 29 建設技研インターナショナルに戻って海外業務を開始
- 31 技術士資格を取得
- 35 現在はタジキスタン、ガーナ、キルギスのプロジェクトに従事

この仕事を目指す皆さんには、幅広い視野と知的好奇心を持って、さまざまな場面・状況に柔軟に対応できる力を養ってもらえればと思います。また、日本人としての

自覚と誇りを持って、謙虚な姿勢と和を尊ぶ気持ち、歴史・伝統を重んじる気質、そして、押忍の精神を大切に、自己実現に向かって突き進んでください。

海 外に興味を持つようになったのは、大学院時代と同じ研究室のシリア人留学生から影響を受けたのがきっかけでした。開発コンサルティング企業を中心に就職活動をする中で、建設技研インターナショナルを選んだのは、幅広い分野と地域で実績があるほか、説明会に足を運んだ際に明るく活気のある社風に魅力を感じたからです。

当社では、入社後4年間は国内の土木建設事業の企画や調査、計画などを手掛けるグループ会社の(株)建設技術研究所に出向することになっており、私の出向先は道路・交通部でした。私は大学で土木工学を専攻していましたが、学部生の時は水文解析、大学院では地中構造物の耐震解析の研究室に所属していたので、道路に関する知識はほぼゼロの状態でした。しかし、先輩・上司の丁寧かつ厳しい指導により、現在の道路・交通部での業務に必要な基本

的知識を同研究所で身に付けることができました。

4年間の出向を終え、当社に戻った社会人5年目、初めての海外業務はパキスタンの山岳道路拡幅プロジェクトでした。当初は英語での業務に苦戦したり、慣れない環境での生活で体調を崩したりと、海外業務の厳しさを痛感したことを覚えています。

入社10年目となった現在、携わっているのは、タジキスタンの道路維持管理能力向上プロジェクトです。同国ではソ連時代に造られた道路の老朽化が進んでおり、本プロジェクトでは道路の状態を計測するシステムの使い方を先方の運輸省職員に指導するとともに、実際の舗装補修工事を通じた技術支援を行っています。1年間のうち約2〜3回、現地には1〜2カ月間ほど滞在し、活動を行っています。今では運輸省職員たちと信頼関係が深まり、やりがいを感じながら日々過ごしています。

道路・交通分野で相手国に貢献